

### 3. メンイベント(2日目)

## 3.3 全体会『川人のチャレンジ』

### 3.3.1 ポスターセッション

■ 日時:8月22日 9:00~10:00

■ メーン会場:リトリートたくら



#### ●～えどがわ自遊楽校～みずとみどりの寺子屋

多摩川や荒川では遊びが盛んだが、東京で江戸と名のつく江戸川でも遊びを盛んにさせたい。主な活動は生物観察などで、都市でも水の中はワンダーランド。汚い大都市河川でも遊べるのだからと言うのを多くの人に見せ、子供の笑顔、子供の将来のために役に立ちたい。

#### ●川塾北九州



紫川と名のつく通り7色に見えたのが一旦汚れ、またきれいになった。“誰でもカヌー”と言うことで、

身障者の方など様々な子をサポートして活動をしている。カヌーがメインだがキャンプなども。今後は北九州の広範囲へ活動を広めていきたい。

#### ●河和田自然に親しむ会

今回の福井豪雨で10個所以上が決壊し大きな被害があったが、多くの人の援助を受けとてもありがたく思っている。普段の活動はおしどりの観察を10年以上行っており、おしどりの生活環境もつかめてきた。1年中おしどりがいるので住人の一部のような気持ち。豪雨の時は何処かへ行ってしまい心配したが、また戻ってきてくれた。おしどりの数は30~40羽で5~6家族。人とおしどりの共存を目標にしている。

#### ●九州東海大学 白川エコロジカル・ネットワーク

白川わんぱく探検隊に所属している学生が活動の主。カヌー体験や里親制度で行政と民が手をつなぐ。グランドワークでは行政と青年会の学生の連携。

#### ●NPO法人小貝川プロジェクト21

もともとは、障害者のある人もどんな人も活動しようと言う町がやっていた事業。これを町から依頼を受けて活動するようになった。年中常設のため、いつ来ても乗馬できたり川遊びできたりする。常設には助成金をもらい、参加者からの参加費で賄っている。行政との橋渡しの役割を担っている。

---

### ●しずおか流域ネットワーク

静岡県内の川活動の交流会。主な活動は川のリーダー養成や水ガキクラブ。川は急流なので深い淵があるため飛び込んだりでき、水がきれいなので遊ばせるのに心配がない。水ガキクラブは今年で5年目を迎え、50人の水ガキを育ててきた。クラブでの活動は暖かい時期は月一で川へ遊びに行き、冬は峠にいたり凧揚げをしたり川以外の活動もしている。東北や中部の水ガキと交流し、川での遊び方の違い感じる事ができた。子供との活動はPTA感覚で楽しくやっている。

---

### ●白川わんぱく探検隊

白川リバースクールでは、半日でできる川体験では川での流れ方や川の流れの構造を教えるから、スローバックの練習、カヌー体験をしている。体験の前にアイスブレイクを行ったり、川への恐怖感を取り除くことが重要。また、白川リバーネットワークは流域の団体が月一で約20団体が参加し、活動している。8月にはこのネットワークの活動の成果としてイベントを行い、河川清掃などをした。流域の連携の秘訣は人々の考えが同じ方向へ向かっていること。



---

### ●千葉県河川環境教育研究会

利根川から印旛沼を通り海へ抜ける人工河川の花見川での活動。幕張メッセで毎年行われる河川環境展を見に来る子供たちを、川に連れて行きたかったのが活動のきっかけ。都市河川なので汚い川だが、この川でも遊べることを証明したい。子供にEボート体験をさせると、川の水が汚いから始めは抵抗を感じているが、周りの自然のすばらしさに気づき水になじんでいく。今の活動は年5回だが今後は常設化していきたい。子供たちの隠れ家のようなお城を作ることが今年の目標。

---

### ●財団法人ハーモニーセンター

小笠原キャンプでは食材を自分で探させ、料理させるのがメイン。約1週間のキャンプで都会の子供50人、小笠原の子供50人を一緒に生活してもらい交流を深める。始めのうちは打ち解けない子供もいるが、テレビの話題などちょっとしたきっかけで仲良くなることができる。特に、小笠原の子供は野外遊びが上手いため、都会の子供が遊びを教えてもらうこともある。

---

### ●京都日野川水辺の会

小さい川で3面張りのため虫もいなくなってしまったため、ワンドを作りたいことから始まった。川での清掃活動も行っている。ワンドを作る際には小学校でのワークショップで地元の意見を聞き要望を反映できるようにした。完成のフェスティバルでは多くの人の参加があり、地元の人々の関心の高さを実感した。今では親が子供を遊ばせるなどワンドは十分活用されている。小さいワンドではあるが、行政と民が一緒になった大きな事業である。

### ●NPO法人水環境北海道

活動場所は鮭が上るきれいな川だが、途中汚い部分もある。川を学びの場にしようと活動を始め、今年で8年目。参加者はリピーターが多く、一回参加した人が、できない人の面倒を自然に見たりしている。将来は参加した子が大きくなりリーダーとして帰ってきて欲しい。サポート体制は大人が15人で継続性がある。

### ●堀川とまちづくりを考える会

水質としては汚い川。堀川のボランティアガイド養成のための堀川大学を開催。たくさんの堀川への説明があるが、間違っているものもあるため、誰でも正しいガイドができるようなガイドライン作りを行っている。古い川は河童伝説があり、堀川でもあるため河童サミットにも参加。他に東京や北九州の団体とも交流しシンポジウムも開催している。

### ●NPO法人水環境ネット東北

“協同”ということで事業を市民センター、公民館から依頼を受けている。“広瀬川”は仙台の歴史上重要視されていて、昔はお城を守ったりしていた。最後に“継続”としてプログラムの内容も充実し、人気プログラムが出るほどになっている。認知度は上り様々な小学校からの要請があ

るが、これからは受け入れ態勢の充実化を図りたい。

### ●淀川愛好会・摂南大学

大学では河川工学を研究しているため、親水活動の実験を行っている。若い人も活動を伝えたくてパネルディスカッションに参加した。

### ●NPO法人流域調整室

蛍の名所のため、見学会を行っている。大阪の近くなので観光化してしまい、本来の目的と異なるのではとの議論があった。自分たちの住む地域に当たり前に蛍がいることを自覚して欲しい。今年行った草笛コンサートでは地元の人多くの参加があり、好評だった。



### 3. メンイベント(2日目)

## 3.3 全体会『川人のチャレンジ』

### 3.3.2 パネルディスカッション『川人の共感』

■ 日時:8月22日 10:00~12:15

■ メーン会場:リトリートたくら



#### 1. 実行委員会 委員長挨拶:廣部英一

- ◇手作りの大会にしようと準備をしてきた。
- ◇川は身近な環境であるが、大きく変化していくものである、今回の全国大会を機会に地元の人たちの川に対する認識がどのような方向に向いていくのか楽しみである。



#### 2. 川に学ぶ体験活動協議会 会長挨拶:

副会長 太田 昇(会長代理)

- ◇今年は水害のおかげで開催されるか心配をした。

◇今回の大会に参加して日野川流域の個人を含め団体などたくさんの人たちが先日の災害を乗り越えて大会運営のサポートをしているのを実感した。

◇今回の分科会の中でCだと思うが、川遊びで子どもたちが大人を信頼して体験をしていた、地域での親子の愛情、信頼関係がしっかりしていると感じた。



◇川は学ぶところが多い、川から遊び、食文化など生きていく糧をもらっている。

◇日野川は盆踊りなど地域の文化を大切にしている、このような地域からは学ぶことが沢山あると思う。

◇今回のポスターセッションは16~17団体の参加があった、各地域でみんな頑張っている。これから地元の文化を大切にしながら中央だけでなく、地域、地域で指導者を育てていくことが大切である。

### 3. 来賓挨拶

□国土交通省河川環境課長：坪香 伸氏



◇今年は例年になく水害が多い、河川は恐ろしい水害をもたらす反面憩いの場所でもある。行政は、以前は利水・治水だけであったが環境もということが河川審議会 で決まった。

◇われわれ行政が机上で考えても、らちが明かない。河川に関してヒアリングをしたいが膨大な数になる。安全面についても大変重要である。

◇全国の1000水系で数千人の川の指導者が必要である、仕組作りをして指導者を育成したい。

◇河川管理者が仕組みを作るといろいろと偏るのではないかという声が聞こえる、そこで各地域、地域で仕組み作りをする。

◇河川関係者での情報交流・公開が重要である。

◇各団体の活動河川で自発的な仕組み作りをして欲しい、本省はそれらをサポートする。



□ 福井県土木部長：福田正晴氏

◇福井県知事の代理で来た。

◇今年水害があった、沢山のボランティアの方々来ていただき感謝をする。

◇自然があるから美しくまた恐ろしいと思う。

◇今回の活動のようなことは情報交換、ネットワーク作りには重要であると思う、行政もバックアップする。

◇人と人の知恵の輪が大切である。



### 4. [緊急企画]

福井豪雨災害と地域への協力活動

石川製紙株式会社 代表取締役：石川 浩氏



◇ナホトカ号の重油が流れたときにボランティアを立ち上げて三国にいたので、今回の水害の時にもノウハウがあり、18日の夜(災害当日)にはボランティア受け入れ態勢を立ち上げることができた。

◇ナホトカ号事件があつて、その経験を生かして福井災害ボランティアネットを立ち上げた。

◇福井から水害のあった新潟に行っていたが、

急遽、福井水害のためにとんぼがえりをした。

- ◇行政は情報収集等に躍起になっていた。
- ◇急遽、町長に電話して、ボランティアセンターを立ち上げた。
- ◇ボランティアセンターに各関係者が集まったが、ほとんどの人が初対面であった。
- ◇19日からボランティアを受け入れ始めた。
- ◇自治会の役員会で、ボランティアを受け入れることに決定。しかし、情報がなくて町民がボランティア・物資情報を知ったのは3〜4日後だった。
- ◇災害地区内で30軒ぐらいがボランティアを必要としたがボランティアは100人程度。
- ◇災害以前に建設された砂防ダムの効果で、土砂ではなく、泥が多かった。
- ◇泥の除去は、人力でできた。(土砂になると重機を使わなければだめである。)
- ◇大滝地区が最もボランティアの受け入れが早くいろいろな対策が早くなされた。
- ◇災害情報を地域から早く発信したことが良かった。
- ◇ボランティアと住民との意識のずれがあり、トラブルもあった。
- ◇災害時にボランティアとの情報交換、住民間での情報交換が必要である。住民と行政とNPO・ボランティアをつなぐ人間が必要である。マニュアルではなくて3者のネットワーク作りが必要である。災害のための準備(物ではない)が必要である。
- ◇緑のダムづくりを広げていきたい。
- ◇ネットワークを拡げていき、次世代につなぎたい。

**Q. 質問: 安藤さん**

◎ボランティアの方は自費参加なのか？

◎ボランティアへの費用支援はあったのか？

**A. 回答:**

- 基本は自費だろう。
- 受け入れる方としては、食事、休憩場所等の手配は行った。
- 企業・行政等からの支援は必要だろう。
- 夏休みだったので、高校生などの支援があった。
- ネットで、ボランティアの呼びかけを行った。
- 義援金、物資を送るのもボランティアだと思ふ。無理ない範囲でボランティアをすればよいと思ふ。



-----  
**5. パネルディスカッション「川人の共感」**

**パネラー:**

- NPO法人田んぼの学校越前大野／ 高津琴博氏
- NPO法人広域防災水難救助捜索支援機構／ 北川健司氏
- 帯広NPO28サポートセンター／ 千葉よう子氏
- 番匠川活動支援センター／ 平野憲司氏
- 国土交通省河川環境課調整官／ 森 吉尚氏

**コーディネーター:**

- 川に学ぶ体験活動協議会事務局長／ 斉藤 隆

**司 会:**

- 松井るみ

**高津** 真名川での水辺の楽校の会長も兼任している。

大野地区も被災地である。初めての経験だった。自分の田んぼも冠水した。水辺の楽校で、技術ボランティアを行った。復旧時の手配・調整を行った。



■ 自己紹介・災害ボランティアの感想



**北川** 岐阜から来た。活動内容は、災害時に、レスキューのスキルがある人間を派遣している。日ごろレスキューの指導者育成もしている。国土交通省と協力して水防活動や水難事故活動等を行っている。福井の災害では活動できなかった。隊員は300人程度。アウトドアサポートシステムをしている。まだ、うちの団体の知名度がないので災害の救援に行っても不審者扱いを受ける、地元の消防団との合同の演習も行うようになった。全国の各河川にうちのような活動をしている団体

が必要であると思う。今回の福井の水害は夏休みで時期的に悪く、行くことができなかった。

**千葉** 北海道から来た。文化と環境と福祉の三つが生きていく上で必要である。帯広NPO28サポートセンターを母の意思を受け継いで運営している。川に行ってはいけないと言う時代が長かった。過去を踏まえて地域的なアクションをどのように起こすか？ 検討をしていかなければならない。

**平野** 九州大分県佐伯市から来た。九州の番匠川で活動をしている、番匠川は流域人口6万人しかいない。川の流域の人たちの遊びに対応できるように2年前に流域ネットワークを立ち上げた。本職はテレビ局の報道記者である。災害時はボランティアではなく仕事として情報を集めている。自分たちのことは自分たちで守るというコンセプトで地域防災を考えている。番匠川は昔から地盤が固くて災害にあまりあっていない。地元流域の人たちは大雨の時には川の増水状況でどのくらい水位が上がったら危ないかと体得をしている。自然の中で親子を遊ばせたい。夏のフィールドだけではなくほかの季節も川の活用を考える。

**森** 河川の整備管理を担当している。水害に関してはどうも弱者に被害が多発するように思う。やはり地域としての防災が必要であると思う。地域防災は行政だけでは補えないので地域と川との日常的なかわり合いを考えながら、また体験しながら

拠点を作る。地域住民を含め川に関心を持ってもらい、川に関わる人口を増すと同時に川の指導者作りをしていきたい。昨日は6号7号堰堤を見学した、先人の手作りの知恵に感銘を受けた。長い時間のなかでいまだに生きて活用できてそれと同時に周りの環境も考えて作られているのには驚いている。

**斉藤** 普段は事務局にいるが、たまに川に出て子どもと遊んでいる。川での子どもたちを安全に導いている。たくさんの方々のお知恵をお借りしながら頑張っている。防災についていろいろなお話が出たが、防災の拠点となる帯広のエールセンターの話を千葉さんにして欲しい。

**千葉** 今年の4月に文部科学省と環境省と国土交通省とで北海道の地域拠点センターが拠点として帯広に建てられた。将来的には地域防災に活用しようと考えている。ボランティアについては継続していくには実費保障もしていかなければならないと思う。日常のネットワークを太く構築していくことも大切ではないかと思う。ボランティア活動もどこまで支援ができるのか判断の材料を与えるのも仕事だと思っている。

**高津** 他団体とのコラボレーションの活動はとてもありがたい。すべて自前でできてしまうと補助金などが受けられない。どこかの団体と協力で活動をすると交通費が受けられる。ボランティアに限らずにいろいろな活動を継続していくには資金も必要である。

**斉藤** 顔と顔の見える関係、組織的なつながりも必要であると思う、しかしボランティアやいろいろな活動を継続するには限界があると思う。救急ネットワークを作った、北川さんにご意見を伺いたい。

**北川** 基本的スキルが大切であると思う。隊員の訓練をしているがまだ連携ができていない。日常的にJpSARTは地域の消防と一緒に防災訓練をしている。地域防災を考えて訓練された人が各河川に必要なのではないか？国土交通省からハザードマップができていますが本当に活用されているのか疑問である。余談ですが、マンホールの蓋がなぜ丸いか知っていますか？蓋が中に落ちない仕組みになっています。私たちは適切な用具、機材の知識を一般に啓蒙してきた。日常的に訓練を継続していけないと思う。

**斉藤** 訓練に日常的に自然体験活動やカヌー体験をする人も訓練にかかわるのか？

**北川** 一般的には関わらない、市民対象の機材の使い方体験ワークショップをしている。

**斉藤** スローロープの投げ方、ライフジャケットのつけ方くらいなら支援できる。国土交通省の方に海外支援についてもお話を頂きたい。

**森** うちのほうから海外に人を派遣したり、人を呼んだりしている。しくみ、やり方を動きながら発展してきた。日本の互助制度か



ら発展をした。仕組み作りには試行錯誤されてきたが資金面については改善されている。日本独自の地域的なつながりを加味しながらルールを作っていく。資金レベルも人によっては違うので最低のところと合わせる。各地域で実践をしてよりよい事例を作って欲しい。これからはすばらしい自然が享受できるようにこの大会をひとつのきっかけにしてこれから日野川らしい活動を展開されることを期待している。行政側も支援していきたい。

-----  
【まとめ】

**平野** 日野川を歩いた、何か市民の目が川に向いていないような気がする。橋の下にある落差工はサクラマスの上の邪魔になる。中州の樹木種に柳が多い、航空写真を撮って検討する。サギコロニーとの共存ができています。のちのち鳥のサンクチュアリーとして活用することはできないであろうか。川が500メートルごとに区切られているようなのでいろいろなプログラムが組めると思う。

見た目はとてもきれいだが大腸菌の数が多く、水質の浄化を検討して欲しい。魚道がいろいろあったがすべてパターン化されている、コンセンサスがなされていない、鮎、サクラマスの習性を研究されていない。サクラマス遡上のための魚道も必要なのではないか？松ヶ鼻地区では伝統文化があった、昔の水屋、墓石は一段高くして設置してある、このような事柄を外部に公開するべきなのではないか？

**千葉** 地元ではお母さんたちが子どもたちに大

変愛情をもって地域の中で育てているのが良くわかる、しかし、もう少しお母さん方は川に興味を持って欲しい。日野川は浅さといい流れといい、とても子どもたちを遊ばせやすい川であると思った。他の川では鮎の関係で遊ぶのに書類を出さなければいけないというところもある。川遊びだけでなく、川の歴史、文化、上流の歴史を含めいろいろと話して行くことが必要であると思う。子どもたちにいろいろと体験をさせるには地元の人たちのスキルアップも大切であると思う。

**北川** B&D分科会でアカタンの石積みの堰堤を見た。この今庄のアカタン地区をフィールドミュージアムにするのにはどうしたらよいか？沢山の意見を聞いた。地元のコネクトの中にゆっくりと自分たちのペースで開発していこうということがあった、とても感心をした。フィールドミュージアムの件についてはもう何も言うことない、こちらいろいろと学ぶことが沢山あった。

**高津** 治佐川は里地を流れる川である。人間居住地と湧き水、生態系の管理が焦点となった。絶滅危惧種のバイカモ狩りをするのは、一時的には自然を破壊しているが、将来的にはバイカモを保護する方向になる。時に人間が自然を管理することで守られる自然もある。地域の文化を人が管理することで生かされていると思う。そのようなものが環境と文化であると思う。

**斉藤** いろいろなお意見ありがとうございました。今回の総括を述べさせていただきます、①魅力ある川作り、②正しく広範囲な地

域への情報発信、ゆっくりと自分のペースで発信していくことが必要ではないか。  
③川に学ぶ機会を増やす、これは指導者の育成や活動をバックアップしていくことが必要ではないであろうか、④主体的かつ継続的な活動の推進。これからこの活動が行政や市民を推進し、地域の活動を支え、全国的に展開されることを期待したい。災害にも関わらず地元の方々には大変なおもてなしをしていただき感謝をしている。

森 皆様には今回のこの日野川流域で開かれた大会を今後の糧としていただきたい。

太田昇 子どもたちの活動、食文化、地域文化、RACと構成員の連携、中央だけではできない、地域の子どもたちに何を残すか。



森 日常的に災害、川に関わり、安全管理、指導者養成、先人の知恵を、自分たちの問題として全国ネットワークの支援、地

域の川・人つながりをつくるボランティアに実費提供も大事ではないか

平野 交通問題や危険もある、情報のフィードバック、カヌー協会の支援

川は危ない、しちやだめの声が多すぎる、ライフジャケットは浮き袋だ、水ガキが絶滅した、楽しかったにはリスクがある、安全に、スタッフの訓練と知識がない、地域の川ならではの危険や原風景がある、100mのテリトリー

ダッシュ村のように里山の見直し体験、建物が多すぎる、俗化させたくない、観光バスと提携しては、ログキャビン、石積み積み木化して組んでもらう、土産に亀甲積み木、教育玩具、ブランド、手作り看板がいい、トイレが必要、遊歩道が必要、乗馬で散歩、後継者は、不法投棄は、案内看板がほしい、無いほうがいい、直接語った方がいい、そば畑に違和感、そばは本来斜面焼き畑であった焼き畑の方がうまい、焼き畑の労働がない担い手がない、7号にうまい水場を設ける、杉を遊びに使う、

水と緑のボランティア、  
バザースケープ[5感]

投網でサクラマスの捕獲に挑戦する「川に学ぶ」体験活動全国大会の参加者らー21日、武生市向新保町の日野川



# 川に学ぶ社会実現を

## 武生、今庄 日野川流域 300人集い全国大会

### 体験会や活動発表

川にかかわる全国の活動家が一堂に会し「第四回川に学ぶ体験活動」に会し「第四回川に学ぶ体験活動」で人と川の共存について考える。

大会は全国約百三十の河内樹林の伐採や魚道が、投網を使ってサクラマスと市民団体が組織整備、サクラマスのそららマスの捕獲に挑戦した。一川に学ぶ体験活動観察などの取り組を結ぶ。二二日は今庄町のり協賛会が二〇〇一年から開催。今年も県内の日野川に関係する団体でつくる「日野川流域交流会」との共催で、「川人（かわびと）の共感」をテーマに開かれた。

初日は三つの分科会を開く。武生市の「治左川とトミヨを守る会」など、各団体が環境保全の推進や川に親しんでいる現場で活動紹介を行った。日野川流域交流会は、

「川に学ぶ社会」実現の方向性を探る。

■ 福井新聞社報道記事  
(8月22日撮影記事)

平成16年8月23日(月曜日)

福井新聞

### 川は命の大切さ語る

#### 全国大会 討論や福井豪雨報告

第四回川に学ぶ体験活動全国大会は、日野川流域福井新聞後援で、二十一日、今庄町のり協賛会が二〇〇一年から開催。今年も県内の日野川に関係する団体でつくる「日野川流域交流会」との共催で、「川人（かわびと）の共感」をテーマに開かれた。初日は三つの分科会を開く。武生市の「治左川とトミヨを守る会」など、各団体が環境保全の推進や川に親しんでいる現場で活動紹介を行った。日野川流域交流会は、

実践活動の課題や「川に学ぶ社会」実現の方向性を探る。大会は全国約百三十の河内樹林の伐採や魚道が、投網を使ってサクラマスと市民団体が組織整備、サクラマスのそららマスの捕獲に挑戦した。一川に学ぶ体験活動観察などの取り組を結ぶ。二二日は今庄町のり協賛会が二〇〇一年から開催。今年も県内の日野川に関係する団体でつくる「日野川流域交流会」との共催で、「川人（かわびと）の共感」をテーマに開かれた。



川に学ぶ人々の輪と地域防災力の広がりを確認しあったシンポジウム=22日、今庄町のり協賛会

■ 福井新聞社報道記事  
(8月23日撮影記事)

## 3.4 参加者からの声

### 1. アンケートから

#### Q1 今回の大会で印象に残ったことは？

- ◎分科会でのバリエーションの多さに驚きました。
- ◎アカタンの石積み砂防堰堤、夜祭り
- ◎夜祭り
- ◎全国ではいろいろな団体が活動されていることに改めて知った。
- ◎ネットワークの大事さを思い知らされた。
- ◎地域力
- ◎スタッフの皆さんの配慮が良かった。
- ◎アカタンの「堰」の発見、人の過程
- ◎里山の自然を満喫できた。
- ◎地域の和から発信し、全国への広がりが進んでいる。
- ◎人の和で生まれる知恵はすばらしい。
- ◎人との交流、自然との出会い、再認識。
- ◎A分科会での街の風景と環境の多様性。
- ◎B、D分科会、ワークショップ、現地（野外）で、地図を用いながら意見交換しやすい
- ◎雰囲気づくりがなされていたこと。
- ◎見事な明治時代の砂防堰堤群と市民団体の方々とのゆっくりとした身の丈に合わせたという取り組み方。
- ◎地元の方々の熱心で心のこもった準備、不思議に思ったこと、治左川とすぐ近くの川（水路）のアンバランス→守る会の心が周囲に伝わらないこと。◎
- ◎被災しながらも、大会が実施できたことです。
- ◎多角経営で常設しているNPOの例
- ◎料理が美味しかった。アカタンのご説明が感動的だった。
- ◎各団体の川への思いの熱さ。
- ◎100年間埋もれていた堰堤を見られたこと。
- ◎大変価値あるものだと思うので今後この活動を続けてほしい。
- ◎フィールドでの実体験を中心にした分科会は、意見交換を活発化できていた。
- ◎1日目の藻を手入れしたこと。
- ◎（2日目のみ参加）石川浩さんの話は、現場からの生の声として、とても参考になった。

- ◎河川内植生の手入れの問題
- ◎川を愛する仲間がこんなにたくさん、こんなに各地にいることがわかってとてもうれしかった。
- ◎日野川流域での各市民団体の強い連携、田倉川の歴史的砂防施設の存在と整備状況
- ◎パネルディスカッション、緊急企画（ボランティアの実態）
- ◎R駅から会場が遠い。（22日）
- ◎地域におけるリーダーの養成が重要であること。
- ◎豪雨と川人とボランティアのかかわり。
- ◎全国各地で様々な活動が行われていることを実感しました。
- ◎行政とこれらの団体との連携が必要であると感じました。
- ◎自然がいっぱい。
- ◎アカタン砂防堰堤
- ◎場・空間・人、どれをとってもすばらしいところですね。
- ◎自然とのつながりが生きている。
- ◎ローカル的で良かった。
- ◎公式プログラムではないが、大会前日に豪雨の被災地を訪れた。復旧は、まだまだ前途多難で様々な立場からの支援を行う必要があることを痛感した。
- ◎分科会、パネルディスカッションともザックバランでとても取り組みやすかった。
- ◎熱心な意見等を賜り、有難く、勇気づけられた。
- ◎河川を通してオシドリ、ホテルなどと親しんでいる毎日です。全国の川に学ぶ活動など知るチャンスが出来たと喜んでます。
- ◎実行委員の方々の方々の行動力
- ◎ポスターセッションで様々な活動の話を聞いたこと
- ◎段取りが八分というが、準備が大変だったと思う。
- ◎福井の人がのんびりしていること。

## Q2 私たちのおもてなしは ご満足頂けましたか？

- ☺交流会良かったです。
- ☺大変満足です。
- ☺大満足です。
- ☺無回答
- ☺満足。ごはんもおいしかったし、お茶など細かい心配りがうれしかった。
- ☺イエス
- ☺十分満足致しました。
- ☺大満足
- ☺大変おつかれさまでした。
- ☺色々とお世話様でした。
- ☺大満足です。
- ☺大満足
- ☺大会全体を通じてとてもよく目配りがきいていたと思います。
- ☺交流会の料理も地元のものばかりでおいしかったです。
- ☺料理、お酒、もてなしの心、ありがとうございました。
- ☺木製うちわ、和紙聞きましたが、木は福井のものでしょうか？
- ☺満足
- ☺大変すばらしく実行団体に感謝します。
- ☺大変素晴らしい会で満足できました。
- ☺満足しました
- ☺はい！！
- ☺無回答
- ☺y e s
- ☺手づくりの料理、もてなしがとても心がこもっていました。
- ☺地域のみなさんがいっしょうけんめい取り組んでいただき、頭が下がる思いです。
- ☺満足
- ☺まあまあ
- ☺満足した
- ☺はい
- ☺とても充実していたと思います。
- ☺夜の祭りは最高でした。
- ☺夜まつりの手づくり料理はたいへんよかったです。
- ☺ほんとうの“豊かさ”を感じられる幸せな2日間をすごすことができました。
- ☺ありがとうございました。
- ☺満足
- ☺たいへん満足しました。☺ありがとうございました

- した。
- ☺都会にはない満天の星、すばらしい環境を大切に...
- ☺主催者側なので分かりませんが、だいぶん良かったと思います。
- ☺はい
- ☺3つ星です。
- ☺満足です。
- ☺満足
- ☺驚くことが色々ありました。赤谷川の堰堤はもっと色々な人に見てほしい。地元の山菜や煮物がおいしかった。

## Q3 来年も参加されたいと思いますか？

- ☺是非参加したい。
- ☺はい
- ☺時間があえば
- ☺？
- ☺はい
- ☺イエス
- ☺はい
- ☺是非、時間を遣わせて参加したい
- ☺近くで料金があれば
- ☺できれば希望します。
- ☺必ず参加します
- ☺ぜひ
- ☺はい
- ☺都合があれば参加したいです。
- ☺近くであったり、交通費が出るなら
- ☺ハイ
- ☺ぜひ参加したいと思います。
- ☺時間の都合がつけば参加したいと思います。
- ☺遠いので
- ☺今度は川遊びをしたい。
- ☺東北は遠いです。(参加したいが)
- ☺y e s
- ☺ぜひ参加したいです。
- ☺ぜひ参加したいと考えております。
- ☺県外まで行くのは難しい。良いイベントだが
- ☺思います。
- ☺思う
- ☺できれば
- ☺東北ということで遠いですが、できたらと思います。
- ☺はい。
- ☺ぜひ参加したいと思います。
- ☺是非！！

☺近くだったら参加したい。  
☺y e s  
☺ハイ  
☹参加しません  
☺はい

☺今回は2日目だったので1日目にやった内容も参加してみたいと思った。  
☺チャンスがあれば参加したい  
☺場所によりけりです。

## 2. Eメールからの声

(兵庫県在中 男性より)

私の正直な所の感想は、進駐軍が来て蹂躪して行ったという感じでした。地元のいい所が生かされていなかったように思いました。分科会のコーディネーターも地元の人は少なかったし。地元では不満があったのではないですか。☹

-----

(東京都在中 男性より)

### 参加者募集

実行委員会側のアナウンス及び準備が早々にあったにもかかわらず、応募が遅かった点。これは、RAC側が大いに反省しなくてはならないことで、現地の皆さまには、大変ご迷惑とご心配をお掛けしました。☹

### 分科会

B&D分科会に参加しました。  
ファシリテーターの人は良かったです。  
平野さんが、ファシリテーターとしてはちょっと口を挟みすぎていたような嫌いが若干ありましたが、平野さん、北川さんともに良い雰囲気を作っていたと思います。☺☺  
ポイントとなることを整理したマップを予め配布したことや、3色の信号シールで参加者の意見を聞くという、分科会の進め方も良かったです。キラリと光っていました。☺

### 分科会報告

2つしか聞けない仕組みでしたが、全部聞きたかったです。それだけフィールドワークが充実していたということなのでしょう。☺

### 夜 祭

食事もお酒も美味しかったし、踊りも楽しかったです。やんしき踊りのステップは覚ええましたよ！地元の文化を味わいながら、非常に楽しませていただきました。☺

### ポスターセッション

出展内容をレポーターが聞き出していく、というやり方は初めてでした。全部の出展者の内容を全員でシェアできて、とても良い方法だと思いました。レポーター役の松井さんがとても優秀でしたね。☺

### 被災地報告

ただ被災状況を伝えるというのではなく、ボランティア窓口の設置のことを伝えていただいて、これは、本当に参考になりました。非常に良い切り口だったと思います。☺

### パネルディスカッション

ソバ屋でも話題に上がりましたが、前の被災地報告のプログラムにだいぶ引っ張られて中途半端な内容となってしまった印象です。水害（あるいはそれに備えた）と川の指導者の係わりも重要なテーマですから、テーマをそれに絞るというのも一案だったかもしれません。結果論ですが。☹  
パネルディスカッションのストーリーについての事前打合せが足りなかったのかな、という印象を持ちました。事前といっても分科会の結果を反映させるわけですから、分科会後にパネルディスカッションに向けた打合せをするべきだったのでしょうか（やったのかな？）。コーディネーターの頭の整理のために、分科会の結果を箇条書きかキーワードで事前に整理しておく必要があったのだと思います。☹

### バスの運行

最後の「リトリートたくら→武生駅」の出発は、もう少し時間的余裕が欲しかったです。みなさんに挨拶もせずバスに飛び乗ったって感じでしたから。☹



本大会は、(財)河川環境管理財団の河川整備基金の助成を受けています。